

第2回 魚津市立西部中学校運営協議会 記録

日時：令和7年11月27日（木）14:00

会場：魚津市立西部中学校会議室

1 開会あいさつ（校長）

本日は、前半で学校運営の現状について、後半で今後の学校運営について協議をお願いしたい。

2 学校視察

授業の様子、校内の掲示物等を視察

3 議題

(1) 学校運営の現状について

① 地域学校協働活動について（校長）

地域の力を生徒の「地力」にし、生徒の力を地域の「活力」にしながら、学校と地域がパートナーとなって子供たちを育てていきたい。今年度は、いじめ防止教室やSNSトラブル等防止教室、薬物乱用教室の他、音楽や技術の授業サポート、北陸電力から講師を招いた出前講座等を行った。また、地区コミュニティセンターのイベントに参加したり、放課後に児童センターで学童保育のサポートを行ったりしている。地域の方から、活動の様子の報告や感謝のお言葉もいただいている。

地域学校協働活動について生徒にアンケートを行った。地域学校協働活動に興味・関心のある生徒が73%おり、中でも教育機関や保育施設での活動やコミュニティセンターでのイベント、料理や音楽、着付け等の教室に興味をもっている生徒が多い。ぜひ、地域の活動に参加させてあげたい。子供たちの参加状況を学校でも記録しておき、教育活動に生かしていくので、引き続き地域の方の力をお借りしたい。

また、この活動のキャッチフレーズを、生徒会が呼びかけ全校生徒から応募し検討した結果、「CSPA（コスパ）～地域とともに 西中健児～」に決定した。

Community, School, Seibu, Partnership, Action, Active の頭文字をとったものである。コストパフォーマンスともかけられており、地域にある資源を有効活用していくという意味が含まれている。

② 部活動地域展開について（校長）

魚津市教育委員会は、令和7年2月に、令和8年度の3年生引退後、1・2年生の新チームが発足する時期までに、すべての部活動の休日の地域展開の達成を目指すと通知している。国は、休日だけでなく平日の地域展開に向けて改革を推進している。本校においては、約40%の生徒が地域クラブ等に参加している。また、市内だけでなく市外の地域クラブ等に参加している生徒も多い。子供たちの放課後の過ごし方は、年々多様化が進んでいる。

③ 教員の働き方について（校長）

現在、教員の超過勤務時間の上限は月45時間となっている。本校では、チーム担任制や部活動の地域展開により、超過勤務時間が年々減少している。教職員は最も重要な教育資源である。心身共に健康で、心にゆとりをもって子供たちに向き合える環境を維持したい。

④ その他

【質疑・意見交換】

- ・ 先生方の超過勤務時間が減っているが、まだ夜遅くに職員室の電気がついているのを見ることがある。先生方の法令で定められている勤務時間を教えてほしい。また、超過勤務時間をさらに減らすためには、どんなことが必要と考えるか。
 - 在校等時間は8時～16時30分の8時間30分、休憩時間は45分間であり、勤務時間は7時間45分である。超過勤務時間をさらに減らすには、保護者や地域の理解を得て、学校以外が担うべき業務の役割分担の見直しが必要と考える。また、生徒の自己指導能力をさらに伸ばさせることで、生徒間トラブルの解決や保護者対応に要する時間の縮減を図りたい。
- ・ 子供が地域の中で活動し、多くの大人と接する中で、対応力をつけていくことができる。子供が地域と繋がっていくことで、教員の超過勤務時間を減らすことにもなると思う。
 - 地域の力をお借りして、生徒の社会性を育むことができるとありがたい。地域の方々から学びたいと思っている生徒もいる。
- ・ 先生方には、教員免許がないとできない先生本来の業務に時間を使ってほしい。14歳の挑戦では、生徒は米の生育調査等の農業体験を行っている。地域学校協働活動で農業体験をしたいという生徒は、14歳の挑戦とは別に行いたいということか。
 - 14歳の挑戦で魅力を感じ、継続してその事業所に行っている生徒もいる。
- ・ 生徒は、地域学校協働活動の情報をどうやって知るのがか。
 - 職員室前の掲示板に紙で貼り出している。Google Classroomを利用し、タブレット上で閲覧することもできる。生徒会から給食時の放送で呼びかけもされている。

- ・ 地区でイベントを行っており、子供たちの参加が増えてきた。子供も大人の世界に入り込んで、社会勉強をしてほしい。また、主催者側としても参加して活躍してほしい。
- ・ 今年は行事を開催する場所がなく、ほとんど実施できなかった。今後は、農業体験について、作業の危険性を考慮しながら協力してもらう体制を整えていきたい。
- ・ 中学生は忙しそう。これまで、中学生を地域の力として考えるという視点はなかった。いろんな行事・活動に参加して大人と活動し、社会勉強をしてほしい。

(2) 今後の学校運営について

① 学校教育活動の在り方等について（校長）

・ 定期考査の在り方について

近隣の市町村では、1学期の中間考査を実施していない中学校が増えている。理由としては、「出題範囲が狭い」「期末考査の範囲も狭くなる」「修学旅行の時期と重なる」等々が挙げられる。東西両中学校においても、来年度以降の定期考査の在り方について検討中である。

・ 部活動数の適正化について

生徒数の減少に伴い教員数も減少している。また、部活動地域展開に伴い地域クラブ等に入る生徒が増えており、部員数の減少で活動自体が困難な部が出てきている。関連団体とも連携しつつ、募集停止等の判断を適時適切に行い、部活動数の適正化を図っていきたい。

・ 学校行事の平日開催について

学校行事はすべて平日開催にする方向で進めている。学校行事を休日に行うと、地域クラブ等の大会と重なり、どちらか片方に出席できなくなったり、魚津市民バスが休日運休で利用できず、登校が困難になったりする生徒がいる。R8 P T A 授業参観も金曜日に行う予定である。

・ 学校施設の個人利用について

学校施設（体育施設）を個人的に使用したいという問合せが増えている。学校は教育施設であり、教育目的や社会体育その他公共のための使用であれば許可することができる。個人使用は原則認められないということをご理解いただきたい。

② 特色ある学校づくりについて（校長）

西部中学校は「生徒の主体性を尊重し、みんな（チーム）で育む学校」を目指し、「チーム担任制」「地域学校協働活動」の2つの特色のある教育活動に取り組んでいる。

チーム担任制とは、2つのクラスを3人の先生で担当し、これまでのような「担任色の学級」から、生徒が自ら主体的に活動する「生徒色の学級」へと変化していくことをねらいとしている。先生方にとっては、担当する生徒が今までの2／3になるので、ゆとりをもって生徒と接することができるし、事務作業も2／3になる。生徒にとっては、多くの先生と関わりながら、主体性のある学校生活を送ることができたり、3人の先生の中から気の合う先生を選んで相談したりするというメリットもある。

地域学校協働活動では、西中生「放課後・休日いきいき活動」と題し、生徒が主体的に地域行事やボランティア活動に参加する仕組みを構築している。地域の力を生徒の「地力」にし、生徒の力を地域の「活力」にしながら、学校と地域がパートナーとなって子供たちを育みたい。

③ その他

特になし。

4 魚津市教育委員会から連絡

※文部科学省発出の資料の説明

給特法が改正された。文部科学省の通知について、学校の働き方改革として、国、教育委員会、学校、地域・保護者がそれぞれの改革を行っていく必要がある。地域の方にも、学校運営に参画していただき、学校行事や常務の見直しへのご理解をいただきたい。また、学校が担うべき業務の役割分担の見直しへのご協力も賜りたい。

【質疑・意見交換】

- ・ 予算はつくのか。
→ 少額ではあるが、今年度からついている。

5 次回について

第3回魚津市立西部中学校運営協議会…令和8年2月25日（水）14:00～

6 閉会のあいさつ